

GIS NEWS LETTER

地理情報システム学会ニューズレター 第98号

発行日 ● 2016年6月20日
発行 ● 地理情報システム学会事務局

目次

会長就任にあたって	1p
第25回研究発表大会のお知らせ	2p
代議員(社員)総会・理事会報告	4p
委員会報告	6p

正味財産増減報告書・収支予算書(収支)	7p
学会後援行事等のお知らせ	9p
事務局からのお知らせ	9p

会長就任にあたって

地理情報システム学会会長 玉川 英 則(首都大学東京)

5月28日に開催された社員総会で理事に選任され、理事会のご推挙により会長を務めることになりました。当学会がまだ法人化される以前の時代に事務局長を仰せつかって以来、理事の一員として、大会実行委員会、編集委員会、渉外委員会等に関わらせて頂きましたが、今回、学会をまとめる立場となり、その責任の重さを改めて感じているところです。こういう場合、希望と不安が入り混じった... というような表現をよく使うものですが、私の場合、自分の力不足に起因する不安の割合が90%と言えましょうか。



玉川英則 学会会長

本年は、当学会設立25周年です。記念事業という喫緊の課題があり、すでに矢野前会長を中心に記念誌の編纂等が進め

られています。10月15、16日の学会の年次大会に合わせて開催予定の記念行事を無事運営できるかどうか...、切に皆様のご協力をお願い申し上げる次第です。

さて、そのような中でも今回謹んで会長職をお受けしたのは、私なりのビジョンがあつてのことです。25周年という時間の重みを受け止めながら、次の世代・次の時代へのステップとなるような試みができればと考えています。

新たなステップとは、包括した言い方をすれば、コミュニケーションの活性化ということになるかと思います。世代間では若手会員の活躍の場を広げ、その声が反映されるようにしたいと思います。

学協会間に関して言えば、地球惑星科学連合、地理関連学会連合、防災学術連携体等との連携のさらなる展開が考えられます。

産学官の間については、GISCA等の接点がありますが、それを進展させるとともに新たな「よき関係」を模索していくことも望まれます。中央と地方あるいは地方間の連携強化も重要な課題です。国際的な側面では、今年の大会時に発会式を予定している、日・韓・台のGIS関係3団体による国際学会の発足は大きなエポックになることと思います。

当方、直近では、矢野前会長のもと2年間、副会長兼財務担当理事を務めておりましたが、幸いその間、学会の財政は極めて健全な状態で推移しました。それ自体は望ましいことですが、反面、委員会や分科会(SIG)、さらに地方支部の活性化のために適切に利用して頂くことも重要だと感じています。様々な立場、年代、国籍...の方々が一堂に集う学会の特長を生かした活動を推進する財政上のしくみも重要です。

ところで、一般社会のGISに対する関心について、ある興味深い指標があります。日本経済新聞における「GIS」または

「地理情報システム」というキーワードを含む記事数は、2003年頃の年間約60-70件をピークとしてここ10年余り減少を続け、最近では数件程度と低迷しています。これだけ見ると、GISの注目度が近年落ちているようにも思えます。

しかし、その一方で、ビッグ・データ、マイクロ・ジオ・データ、ユビキタス・コンピューティング、ウェアラブル・センサー、ITS、自動運転、ドローン等々、何らかの意味でGISに関連する、又はGISを応用した事物のキーワードは頻繁に耳にするようになって来ていますし、災害の現場で電子地図が活用されるといったことも珍しくはなくなっています。また、理事会や総会でも話題になりましたが、2022年度から高校教育において地理が必修化され、その中ではGISに関する内容もふんだんに盛り込まれることになるようです。

まさにGISは、もはや、それそのものが特別な技術として話題になることはないけれど、様々な場面に入り込み定着化する中で、新たな展開が図られる時期に突入していると言えるでしょう。学会のあり方も、その状況を踏まえながら考えていかねばなりません。前述の繰り返しになりますが、改めて学会員の皆様のご協力、そして本学会でのご活躍をお願いして就任のご挨拶とさせていただきます。

第25回研究発表大会のお知らせ

第25回地理情報システム学会研究発表大会は、2016年10月15・16日（土・日）、立正大学品川キャンパスにて開催されます。本年度も、通常の研究発表（講演発表、ポスター発表）に加え、多彩なセッション企画（シンポジウム、ワークショップ、ハンズオンセッション、チュートリアルセッション、GIS技術紹介セッション）などのプログラムを予定しております。奮ってお申し込み下さい。

発表申込スケジュール

セッションの企画申込期限

7月15日（金）まで

講演・ポスターの発表申込期間

7月1日（金）～7月15日（金）正午

講演論文集用原稿PDFのアップロード期間

7月1日（金）～8月31日（水）正午

事務局宛送付書類の提出期限

8月31日（水）当日消印有効

機器展示および業界説明コーナーの申込期限

8月15日（月）まで

参加費

学術大会（講演論文集のCD-ROM代金を含む）

正会員/賛助会員枠の参加者：

事前登録4,000円（当日受付6,000円）

学生会員：事前登録3,000円（当日受付4,000円）

非会員（一般および大学生以上）：

事前登録7,000円（当日受付8,000円）

高校生以下、70歳以上：

無料（必ず年齢を証明するものをご呈示下さい）

懇親会

会場：立正大学品川キャンパス7号館「レバスト」

参加費：未定（決定次第、Web等でご案内します）

・事前登録、当日受付とも、領収書を発行いたします。

事前登録

受付期間：9月25日（日）まで

大会Webページのリンクから、事前登録申込フォームに必要事項をご登録の上、代金をお振り込みください。

※期日までに入金が確認されない場合、事前受付はキャンセルとなります

※昼食（お弁当）の手配はありません。土曜日は、学食が営業しています

1. セッション企画

シンポジウム、ワークショップ、ハンズオンセッション、チュートリアルセッション、GIS技術紹介セッションなど、特に形式は問いません。1セッション[1時間40分]を単位とし、複数セッションにまたがることも可能です。

セッション企画は、個人会員・賛助会員の方々からご提案いただけます。特に各分科会の方々は、日常の研究成果を発表するまたとない機会ですので、積極的なご参加をお願いいたします。

■ セッション企画申込

受付期間：7月15日（金）まで

申込先：井上大会実行委員長宛（rinoue@tohoku.ac.jp）

申込要領：下記の情報をメールでお知らせください。

- ・セッション企画名
- ・種類（シンポジウム、ワークショップ、ハンズオンセッションなど）
- ・代表者の氏名、所属、メールアドレス
- ・概要（400字程度）
- ・必要セッション数
- ・必要機材（PCなど）
- ・座席数

セッション企画の発表可否は、8月1日（月）までにメールでご連絡致します。なお、会場設備などにより、ご希望に添えない場合がございますので、予めご了承下さい。

2. 研究発表

講演発表とポスター発表があります。講演論文集はCD-ROMで発行します。

講演発表：論文提出が必要です。論文は、地理情報システムに関する理論研究・応用研究の成果で、原則として未発表のものに限ります。また、独創性・完結性がないものの発表は認めません。

ポスター発表：研究形成段階の討論や調査・活動報告などでも結構です。自由で活発な情報交換の場としてご活用下さい。論文の提出は必須ではありませんが、提出された原稿は講演論文集に収録されます。

講演発表・ポスター発表共に、商業宣伝的な内容は認めません。機器展示やGIS製品・利用例紹介セッションにお申し込み下さい。

なお、平成27年度より、講演発表・ポスター発表の発表者（第一著者）に、測量系CPD学習プログラムのポイントが付与されます。大会で発表した場合、(1)「GIS上級技術者」への申請や、(2)「測量系CPD学習プログラム」への登録が可能です。希望者は大会当日、受付までお申し出下さい。

■ 応募資格

- (1) どなたでも発表できます。ただし、発表者または共同研究者（連名者）のうち、少なくとも1名は学会の個人会員（正会員または学生会員）でなければなりません。また、賛助会員は、1口につき個人会員1名分の発表資格を有するものとみなします。
- (2) 発表者となるのは、賛助会員枠を含めても1名につき1題に限ります。ただし、以下の場合には、発表の重複が認められます。
 - ・ 複数の発表について共同研究者（連名者）となること。
 - ・ 同一題目で講演発表とポスター発表を行うこと。
 - ・ 通常セッションと特別セッションの両方で発表を行うこと。
- (3) 大会発表会場で指定日時に発表できること。発表日時の指定は受け付けません。また、会場の都合により発表総数を制限する場合があります。
- (4) 会員は、2016年度までの年会費完納者であること。

■ 発表申し込み手続き

1. アブストラクトの提出

受付期間：7月1日（金）～15日（金）正午（必着）

EasyChair(<https://easychair.org/conferences/?conf=gisa2016>)で、GISA2016を選んで申込を行って下さい。

※ EasyChairの利用方法は、大会Webページの説明書をご覧ください。

※ 記入された氏名・論題が、ニューズレター及び大会WebページのプログラムとCD-ROMに掲載されます。7月16日以降の修正は一切受け付けませんので、予めご了承下さい。

発表の可否は、8月1日（月）までに学会Webページに掲載されるプログラム（予定）にてご確認ください。個別のご連絡は行いませんのでご注意ください。

2. 講演論文集用原稿の提出

受付期間：7月1日（金）～8月31日（水）正午（必着）

【EasyChairにアップロード】

(1) 発表論文原稿（PDF）

作成要領は、大会Webページ掲載のテンプレートファイルをご活用下さい。

【学会事務局宛に2点を郵送】

(1) 上記発表論文原稿の印刷物 1部

（両面印刷を推奨します。セッション司会者に事前送付します）

※ 大会優秀発表賞にエントリーする者は、2部

（両面印刷を推奨します。司会者および審査員に事前送付します）

(2) 著作権譲渡契約書（直筆の署名が必要）

（大会Webページ掲載の書式をご覧ください）

講演論文集CD-ROM作成の日程のため、受付期間外に到着した原稿は一切受け付けられません。発表を取り消させて頂きまますので、予めご了承下さい。

- ・ 発表論文原稿のPDFは、そのまま印刷に耐える品質のものをお願いいたします。
- ・ 使用言語は日本語または英語とします。
- ・ 原稿の仕上がりサイズはA4版4枚とします。
- ・ 発表者に連絡がつきにくい可能性がある場合は、申込書に確実な連絡先も明記して下さい。原稿の不備等で連絡を差し上げる場合があります。
- ・ 発表原稿の編集・出版の権利は、地理情報システム学会に帰属します。

3. International Association of Geo-informatics (IAG' i)

大会初日（予定）に、International Association of Geo-informatics (IAG' i)の発会式および国際シンポジウムがあります。応募要領は「2. 研究発表」と同じですが、**論文および発表は英語に限りません。また、発表者が他のセッションの発表者と重複しても構いません。**

国内開催の貴重な国際シンポジウムの場合として、この機会に積極的に海外の研究者との交流をお持ちください。

4. 第12回大会優秀発表賞

学生会員の発表レベル向上を図るため、本年度も「大会優秀発表賞」を設けます。以下の条件を満たす方が対象となります。

- ・ 本学会の学生会員であること（2016年7月15日までに事務局に入会届が到着した方を含みます。ただし、2016年度までの年会費完納者）
- ・ 修士号未修得であること
- ・ 講演の発表者であること

研究（論文）内容や発表技術の優秀者からセッション司会者が受賞候補者を推薦し、学会賞委員会の中に設置される大会発表賞小委員会の議論を経て受賞者を決定します。受賞者

数は特に定めません。

受賞者には賞状を後日送付し、GISA ニュースレター100 号に氏名と所属を公表します。

また、『GIS-理論と応用』Vol. 24-No. 2 に発表要旨を掲載（モノクロ印刷のみ）します。受賞者は11 月10 日（木）までにA4 用紙1 枚の原稿提出にご協力下さい。

5. 第5 回ポスターセッション賞

ポスターセッションでの議論の活性化を図るため、本年度も「ポスターセッション賞」を設けます。ポスターセッション参加者全員が審査の対象です。審査方法は、郵送（事前登録）・受付（当日受付）でお渡しする審査用紙をご覧ください。

受賞者には賞状を後日送付し、GISA ニュースレター100 号に氏名と所属を公表します。

また、『GIS-理論と応用』Vol. 24-No. 2 に発表要旨を掲載（モノクロ印刷のみ）します。受賞者は11 月10 日（木）までにA4 用紙1 枚の原稿提出にご協力下さい。

6. 機器展示・業界説明コーナー

機器展示: PC、または、android/iOS タブレット上で稼動するGIS のデモソフトの展示。

業界説明コーナー: 学生に会社の業務内容を説明し、仕事内容を理解してもらうための意見交換の場としてご利用ください。

■ 展示申込

受付期間: 7 月1 日（金）～8 月15 日（月）

※8 月1 日（月）までの受付分は、展示概要をニュースレター99 号に掲載します。

（以降の受付も、会場配布パンフレット、及び、大会 Web ページには掲載します。）

応募資格: 学会賛助会員に限ります。出展費用は無料です。

応募要領: 以下を明記の上、E-mail にて事務局宛にお申し込み下さい。

- ①会社名
- ②担当者名
- ③連絡先電話番号、E-mail
- ④展示ソフト名称（業界説明コーナー出展の場合は不要）
- ⑤展示概要（200 字程度。ニュースレターや会場配布のパンフレット及び大会 Web ページに掲載します）
- ⑥必要電源の個数

出展可否の連絡: 9 月23 日（金）までに展示要項と共に E-mail で通知します。

※会場の都合により、各日の展示件数、及び、1 社当たりの機器構成（電気容量）について、事務局が調整することがあります。

※業界説明コーナーは、パンフレット設置等のスペースがあれば、大会直前のお申込みでも受け付けます。事務局までご相談ください。

【2016 年度 GISA 学会賞募集】（既報）

毎年、秋の研究発表大会で表彰が行われる「地理情報システム学会賞」5 部門（研究奨励、学術論文、ソフトウェア・データ、教育、著作）の応募受付期限が近づきました。

締切は7 月15 日（金）です。応募方法は以下のホームページでご確認ください。

<http://www.gisa-japan.org/awards/index.html>

代議員（社員）総会・理事会報告

■一般社団法人地理情報システム学会第46 回理事会議事録

〔前事務局長 厳網林〕

開催日時: 平成28 年5 月28 日13 時00 分～14 時50 分

開催場所: 東京大学工学部14 号館145 教室

理事全員が出席し、定足数を満たして成立した。

報告事項:

報告1 職務執行状況

- ・玉川財務担当理事から資料に基づき財務執行報告がなされた。
- ・奥貫編集担当理事から資料に基づき職務執行報告がなされた。
- ・山本支部・分科会担当理事から資料に基づき職務執行報告がなされた。
- ・太田資格担当理事から資料に基づき GISCA に関する職務報告がなされた。
- ・大場広報・大会担当理事から資料に基づき執務報告がなされた。
- ・小荒井担当理事から企画・渉外に関して資料に基づき職務執行報告があった。
- ・小口教育・学会賞担当理事から資料に基づき職務執行報告がなされた。初等中等教育における地理の必修化への対応について議論した。コンソーシアムを作るなど、議論した。詳細は別途結めることにした。

報告2 入退会会員リストについて

厳事務局長から資料に基づき入退会状況についての報告があった。

審議事項:

第1 号議案 GIS 名誉上級技術者を推薦する件について、矢野会長を推薦することにした。

第2 号議案 厳事務局長から2015 年度事業報告について説明があった。議論、確認して承認した。

第3号議案 玉川財務担当理事から2015年度決算と会計監査について説明があった。議論、確認して承認した。

第4号議案 大佛理事から2016年度事業報告（案）について説明があった。議論、確認して承認した。

第5号議案 玉川理事から2016年度予算（案）について説明があった。議論、確認して承認した。

予定されていた議事をすべて終了し、議長が14時50分に本理事会の閉会を宣した。

■一般社団法人地理情報システム学会第10回社員総会議事録

[理事 厳網林]

開催日時：平成28年5月28日15時00分～16時14分

開催場所：東京大学工学部14号館144教室

本年度の社員総数42名のうち25名が出席し、9名が議決権行使書面を提出したことから、本総会は定足数を満たして成立した。

この総会は2年に一度の理事交代の回にあたるため、会を前半と後半に分け、その間に新体制を決定するための理事会を挟む形式で行われた。

前半は矢野会長の司会により行われ、以下4つの審議を行った。

第1号議案 2015年度事業報告について

厳事務局長が2015年度に実施した事業について配付資料に基づき報告があった。討議の後、満場一致で監査結果は承認された。

第2号議案 2015年度決算と会計監査について

玉川財務担当理事から2015年度決算と会計監査について配付資料に基づき報告があった。引き続き浅見監事から会計監査内容について説明がなされた。討議の後、満場一致で監査結果は承認された。

第3号議案 理事及び監事の任期満了による退任について

議長が理事及び監事の任期満了による退任について配付資料に基づき説明した。討議の後、満場一致で退任は承認された。

第4号議案 理事及び監事の選任について

議長が1月に実施された選挙に基づき提案された理事及び監事の選任について配付資料に基づき説明した。討議の後、満場一致で提案は承認された。なお、被選任者は、いずれもその就任を承諾した。

15時30分、以上で前半の審議を終え、休憩に入った。この休憩の間に第47回理事会が開催され、新体制が話し合われた。（後述）

16時00分に理事会で新会長に選出された玉川理事の司会で社員総会が再開された。まず新体制として副会長に小口理事、事務局長として大佛理事が選任されたことが報告された。また引き続き、2016年度事業計画を大佛事務局長が、2016年度予算を玉川前財務担当理事が報告した。

以上で予定の審議・報告を全て終え、議長が16時14分に本社員総会の閉会を宣した。

■一般社団法人地理情報システム学会第47回理事会議事録

[事務局長 大佛俊泰]

開催日時：平成28年5月28日15時30分～16時00分

開催場所：東京大学工学部14号館145教室

出席者：理事10名、監事2名

定刻15時30分に、矢野監事が議長を務め開会を宣言した。理事全員の出席を確認し、本理事会が適法に成立している旨を告げた。

審議事項：

第1号議案 会長及び副会長の選任について

以下の者が会長および副会長に推挙され満場一致で可決した。なお、被選任者はその選任を承諾した。

会長： 玉川英則 理事

副会長： 小口 高 理事

第2号議案 事務局長の選任について

以下の者が事務局長に推挙され満場一致で可決した。なお、被選任者はその選任を承諾した。

事務局長： 大佛俊泰 理事

ここで、議長を新しく選任された玉川会長に交代した。

討議1

議長が理事の担当を決定したい旨を述べ、討議の後、次のように役割分担を決定した。なお、被選任担当理事は全員その就任を承諾した。

渉外担当： 小口 高 理事・副会長

財務・教育担当： 山本佳世子 理事

編集担当： 奥貫圭一 理事

企画担当： 小荒井 衛 理事

広報担当： 大場 享 理事

支部・分科会・総務担当： 厳 網林 理事

資格担当： 大伴真吾 理事

大会・学会賞担当： 貞広幸雄 理事

監事： 浅見泰司 監事

矢野桂司 監事

第3号議案 2016年度事業計画について

大佛事務局長が2016年度事業計画を決定したい旨を述べ、配付資料に基づき2016年度事業計画（案）について説明し、討議の後、満場一致で承認した。

第4号議案 2016年度予算案について

玉川会長が2016年度予算を決定したい旨を述べ、配付資料に基づき2016年度予算書（収支）について説明し、

討議の後、満場一致で承認した。
予定されていた議事をすべて終了し、議長が 16 時 00 分に
本理事会の閉会を宣言した。



社員総会の様子

委員会報告

GIS 資格認定協会

[大伴真吾]

5 月 28 日に平成 28 年度 GIS 資格認定協会第 1 回全体会議を
開催し、昨年度の総括、今年度の計画等について報告、協議
を行い、次の体制にて活動を行うことになりました。

代表	玉川英則（首都大学東京、GIS 学会会長）
幹事長	大伴真吾（朝日航洋）
幹事(広報担当)	浅野和仁（富田林市）
幹事(会計・渉外担当)	佐藤俊明（パスコ）
幹事(実力向上担当)	太田守重（国際航業）
幹事(事務局長)	竹本 孝（国際航業）
幹事	吉川 眞（大阪工大）
	正木千陽（ESRI ジャパン）
	平下 治（ゼンリンジオインテリジェンス）
資格認定委員長	田中一成（大阪工大）
資格認定委員	山下 潤（九州大）
	松山 洋（首都大学東京）
	久保幸夫（創価大）
	大場 亨（市川市）
	池田晃三（アジア航測）
	島村秀樹（パスコ）
	中島 円（国際航業）
	和田陽一（国際航業）
事務局員	渡辺美紀（国際航業）
	小澤 希（朝日航洋）

なお、5 月 31 日時点の認定状況は次の通りです。

GIS 上級技術者数	370 名
名誉 GIS 上級技術者数	19 名
GIS 教育認定プログラム件数	28 件

正味財産増減計算書

2015年 4月 1日から2016年 3月31日まで

般会計				(単位:円)		
科 目				当年度	前年度	増 減
I 一般正味財産増減の部						
1. 経常増減の部						
(1) 経常収益						
特 定 資 産 運 取 利 益				2,625	2,625	0
特 定 資 産 運 取 利 益				2,625	2,625	0
受 賛 取 会 員 受 取 会 金				200,000	0	200,000
受 賛 取 会 員 受 取 会 金				200,000	0	200,000
受 正 学 生 会 会 員 受 取 会 費				14,477,000	14,633,000	-156,000
受 正 学 生 会 会 員 受 取 会 費				10,877,000	11,033,000	-156,000
受 正 学 生 会 会 員 受 取 会 費				450,000	550,000	-100,000
受 正 学 生 会 会 員 受 取 会 費				3,150,000	3,050,000	100,000
受 正 学 生 会 会 員 受 取 会 費				112,000	77,000	35,000
受 正 学 生 会 会 員 受 取 会 費				1,397,600	1,568,000	-170,400
受 正 学 生 会 会 員 受 取 会 費				548,000	468,000	80,000
受 正 学 生 会 会 員 受 取 会 費				82,000	65,000	17,000
受 正 学 生 会 会 員 受 取 会 費				331,000	439,000	-108,000
受 正 学 生 会 会 員 受 取 会 費				436,600	596,000	-159,400
受 正 学 生 会 会 員 受 取 会 費				1,771,762	1,859,651	-87,889
受 正 学 生 会 会 員 受 取 会 費				931,208	905,831	25,377
受 正 学 生 会 会 員 受 取 会 費				45,260	24,000	21,260
受 正 学 生 会 会 員 受 取 会 費				462,600	490,000	-27,400
受 正 学 生 会 会 員 受 取 会 費				423,348	391,831	31,517
受 正 学 生 会 会 員 受 取 会 費				686,000	660,000	26,000
受 正 学 生 会 会 員 受 取 会 費				686,000	660,000	26,000
受 正 学 生 会 会 員 受 取 会 費				34,554	33,820	734
受 正 学 生 会 会 員 受 取 会 費				120,000	260,000	-140,000
受 正 学 生 会 会 員 受 取 会 費				270,000	345,746	-75,746
受 正 学 生 会 会 員 受 取 会 費				150,000	240,000	-90,000
受 正 学 生 会 会 員 受 取 会 費				120,000	105,000	15,000
受 正 学 生 会 会 員 受 取 会 費				0	746	-746
受 正 学 生 会 会 員 受 取 会 費				0	94,785	-94,785
受 正 学 生 会 会 員 受 取 会 費				0	94,785	-94,785
受 正 学 生 会 会 員 受 取 会 費				0	94,785	-94,785
受 正 学 生 会 会 員 受 取 会 費				90,000	90,000	0
受 正 学 生 会 会 員 受 取 会 費				90,000	90,000	0
受 正 学 生 会 会 員 受 取 会 費				111,691	67,101	44,590
受 正 学 生 会 会 員 受 取 会 費				1,298	992	306
受 正 学 生 会 会 員 受 取 会 費				110,393	66,109	44,284
受 正 学 生 会 会 員 受 取 会 費				18,432,678	18,737,908	-305,230
(2) 経常費用						
大 会 講 義 集 (C D R O M) 頒 布 費				707,888	1,331,461	-623,573
大 会 講 義 集 (C D R O M) 頒 布 費				196,250	209,000	-12,750
大 会 講 義 集 (C D R O M) 頒 布 費				0	114,650	-114,650
大 会 講 義 集 (C D R O M) 頒 布 費				17,042	0	17,042
大 会 講 義 集 (C D R O M) 頒 布 費				0	10,044	-10,044
大 会 講 義 集 (C D R O M) 頒 布 費				71,788	170,108	-98,320
大 会 講 義 集 (C D R O M) 頒 布 費				0	125,659	-125,659
大 会 講 義 集 (C D R O M) 頒 布 費				2,808	3,456	-648
大 会 講 義 集 (C D R O M) 頒 布 費				420,000	698,544	-278,544
大 会 講 義 集 (C D R O M) 頒 布 費				1,979,781	2,180,076	-200,295
大 会 講 義 集 (C D R O M) 頒 布 費				423,696	492,372	-68,676
大 会 講 義 集 (C D R O M) 頒 布 費				1,381,125	1,512,744	-131,619
大 会 講 義 集 (C D R O M) 頒 布 費				23,760	24,840	-1,080
大 会 講 義 集 (C D R O M) 頒 布 費				475,200	362,560	112,640
大 会 講 義 集 (C D R O M) 頒 布 費				882,165	1,125,344	-243,179
大 会 講 義 集 (C D R O M) 頒 布 費				174,960	174,960	0
大 会 講 義 集 (C D R O M) 頒 布 費				174,960	174,960	0
大 会 講 義 集 (C D R O M) 頒 布 費				22,616	0	22,616
大 会 講 義 集 (C D R O M) 頒 布 費				22,616	0	22,616
大 会 講 義 集 (C D R O M) 頒 布 費				22,400	0	22,400
大 会 講 義 集 (C D R O M) 頒 布 費				216	0	216
大 会 講 義 集 (C D R O M) 頒 布 費				726,387	574,114	152,273
大 会 講 義 集 (C D R O M) 頒 布 費				14,096	0	14,096
大 会 講 義 集 (C D R O M) 頒 布 費				13,880	0	13,880
大 会 講 義 集 (C D R O M) 頒 布 費				216	0	216
大 会 講 義 集 (C D R O M) 頒 布 費				50,769	46,173	4,596
大 会 講 義 集 (C D R O M) 頒 布 費				50,769	36,173	14,596
大 会 講 義 集 (C D R O M) 頒 布 費				0	10,000	-10,000
大 会 講 義 集 (C D R O M) 頒 布 費				92,000	200,056	-108,056
大 会 講 義 集 (C D R O M) 頒 布 費				92,000	194,076	-102,076
大 会 講 義 集 (C D R O M) 頒 布 費				0	5,980	-5,980
大 会 講 義 集 (C D R O M) 頒 布 費				569,522	327,885	241,637
大 会 講 義 集 (C D R O M) 頒 布 費				321,652	0	321,652
大 会 講 義 集 (C D R O M) 頒 布 費				198,126	196,531	1,595
大 会 講 義 集 (C D R O M) 頒 布 費				0	11,585	-11,585
大 会 講 義 集 (C D R O M) 頒 布 費				36,720	56,160	-19,440
大 会 講 義 集 (C D R O M) 頒 布 費				10,000	23,209	-13,209
大 会 講 義 集 (C D R O M) 頒 布 費				0	35,000	-35,000
大 会 講 義 集 (C D R O M) 頒 布 費				3,024	5,400	-2,376
大 会 講 義 集 (C D R O M) 頒 布 費				132,634	136,512	-3,878
大 会 講 義 集 (C D R O M) 頒 布 費				127,980	136,512	-8,532
大 会 講 義 集 (C D R O M) 頒 布 費				2,950	0	2,950
大 会 講 義 集 (C D R O M) 頒 布 費				840	0	840
大 会 講 義 集 (C D R O M) 頒 布 費				864	0	864

日本地図センター研究活動支援費	64,904	90,038	-25,134
旅費	62,990	49,390	13,600
旅費	1,050	40,000	-38,950
旅費	864	648	216
旅費	30,000	30,000	0
旅費	90,000	0	90,000
旅費	90,000	0	90,000
旅費	11,112,347	11,037,614	74,733
旅費	4,382,381	4,040,100	342,281
旅費	3,222,101	2,899,125	322,976
旅費	1,160,280	1,140,975	19,305
旅費	1,125,000	990,420	134,580
旅費	93,436	0	93,436
旅費	682,891	653,977	28,914
旅費	374,463	394,641	-20,178
旅費	1,071,418	1,072,664	-1,246
旅費	357,085	574,666	-217,581
旅費	714,333	497,998	216,335
旅費	0	296,730	-296,730
旅費	0	296,730	-296,730
旅費	492,503	465,083	27,420
旅費	48,600	48,600	0
旅費	1,680,336	1,691,736	-11,400
旅費	70,805	70,881	-76
旅費	10,000	10,000	0
旅費	26,711	43,982	-17,271
旅費	388,800	388,800	0
旅費	3	0	3
旅費	665,000	870,000	-205,000
旅費	337,076	573,641	-236,565
旅費	7,346	15,825	-8,479
旅費	6,000	6,000	0
旅費	0	9,324	-9,324
旅費	1,346	501	845
旅費	110,107	216,155	-106,048
旅費	38,500	56,000	-17,500
旅費	69,606	64,206	5,400
旅費	0	76,000	-76,000
旅費	0	1,517	-1,517
旅費	1,353	1,532	-179
旅費	648	648	0
旅費	0	16,252	-16,252
旅費	56,847	60,454	-3,607
旅費	19,400	19,400	0
旅費	322	0	322
旅費	25,124	29,794	-4,670
旅費	11,137	11,137	0
旅費	864	0	864
旅費	0	123	-123
旅費	62,936	89,448	-26,512
旅費	45,120	8,600	36,520
旅費	0	15,050	-15,050
旅費	10,000	0	10,000
旅費	0	24,750	-24,750
旅費	7,600	29,911	-22,311
旅費	0	11,137	-11,137
旅費	216	0	216
旅費	99,840	98,402	1,438
旅費	56,640	74,750	-18,110
旅費	42,120	23,652	18,468
旅費	1,080	0	1,080
旅費	0	93,357	-93,357
旅費	0	32,920	-32,920
旅費	0	42,853	-42,853
旅費	0	16,612	-16,612
旅費	0	972	-972
経常費用計	15,203,633	15,953,456	-749,823
評価損益等調整前当期経常増減額	3,229,045	2,784,452	444,593
損益評価等計	0	0	0
当期経常増減額	3,229,045	2,784,452	444,593
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	3,229,045	2,784,452	444,593
一般正味財産期首残高	65,735,283	62,950,831	2,784,452
一般正味財産期末残高	68,964,328	65,735,283	3,229,045
II 指定正味財産増減の部			
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0
III 正味財産期末残高	68,964,328	65,735,283	3,229,045

収支予算書(収支)

2016年 4月 1日から2017年 3月31日まで

一般会計

(単位:円)

科目	予算額	前年度予算額	増減
I 事業活動収支の部			
1. 事業活動収入			
会費収入	13,750,000	13,951,500	-201,500
正学生会費収入	10,450,000	10,488,000	-38,000
学生会費収入	360,000	463,500	-103,500
大正学生会費収入	2,940,000	3,000,000	-60,000
正学生会費収入	1,250,000	1,300,000	-50,000
学生会費収入	420,000	400,000	20,000
学生会費収入	80,000	100,000	-20,000
学生会費収入	300,000	300,000	0
学生会費収入	450,000	500,000	-50,000
学生会費収入	1,700,000	1,700,000	0
学生会費収入	1,000,000	1,000,000	0
学生会費収入	1,000,000	1,000,000	0
学生会費収入	650,000	650,000	0
学生会費収入	650,000	650,000	0
学生会費収入	50,000	50,000	0
学生会費収入	500,000	500,000	0
学生会費収入	180,000	180,000	0
学生会費収入	120,000	120,000	0
学生会費収入	200,000	200,000	0
学生会費収入	96,000	0	96,000
学生会費収入	96,000	0	96,000
学生会費収入	96,000	0	96,000
学生会費収入	80,000	80,000	0
学生会費収入	80,000	80,000	0
事業活動収入計	17,376,000	17,531,500	-155,500
2. 事業活動支出			
大会開催費支出	1,000,000	1,020,000	-20,000
大会開催費支出	300,000	300,000	0
大会開催費支出	60,000	60,000	0
大会開催費支出	30,000	50,000	-20,000
大会開催費支出	100,000	100,000	0
大会開催費支出	10,000	10,000	0
大会開催費支出	500,000	500,000	0
大会開催費支出	2,530,000	2,530,000	0
大会開催費支出	450,000	450,000	0
大会開催費支出	1,900,000	1,900,000	0
大会開催費支出	1,900,000	1,900,000	0
大会開催費支出	180,000	180,000	0
大会開催費支出	180,000	180,000	0
大会開催費支出	722,000	307,000	415,000
大会開催費支出	212,000	50,000	162,000
大会開催費支出	0	50,000	-50,000
大会開催費支出	25,000	0	25,000
大会開催費支出	5,000	0	5,000
大会開催費支出	182,000	0	182,000
大会開催費支出	160,000	50,000	110,000
大会開催費支出	60,000	50,000	10,000
大会開催費支出	100,000	0	100,000
大会開催費支出	80,000	0	80,000
大会開催費支出	80,000	0	80,000
大会開催費支出	50,000	80,000	-30,000
大会開催費支出	50,000	-30,000	80,000
大会開催費支出	50,000	80,000	-30,000
大会開催費支出	50,000	80,000	-30,000
大会開催費支出	80,000	0	80,000
大会開催費支出	80,000	0	80,000
大会開催費支出	30,000	47,000	-17,000
大会開催費支出	30,000	47,000	-17,000
大会開催費支出	60,000	0	60,000
大会開催費支出	60,000	0	60,000
大会開催費支出	2,770,000	1,970,000	800,000
大会開催費支出	210,000	10,000	200,000
大会開催費支出	150,000	0	150,000
大会開催費支出	50,000	10,000	40,000
大会開催費支出	10,000	0	10,000
大会開催費支出	30,000	0	30,000
大会開催費支出	30,000	0	30,000
大会開催費支出	50,000	50,000	0
大会開催費支出	50,000	50,000	0
大会開催費支出	870,000	200,000	670,000
大会開催費支出	0	200,000	-200,000
大会開催費支出	10,000	0	10,000
大会開催費支出	860,000	0	860,000
大会開催費支出	120,000	120,000	0
大会開催費支出	120,000	120,000	0
大会開催費支出	1,490,000	1,590,000	-100,000
大会開催費支出	100,000	400,000	-300,000
大会開催費支出	200,000	0	200,000
大会開催費支出	200,000	200,000	0
大会開催費支出	50,000	50,000	0
大会開催費支出	170,000	170,000	0
大会開催費支出	170,000	170,000	0
大会開催費支出	600,000	600,000	0

特別シンポジウム開催費支出	0	170,000	-170,000
会場費支出	0	170,000	-170,000
25周年記念事業費支出	850,000	0	850,000
旅費支出	50,000	0	50,000
25周年記念誌製作費支出	200,000	0	200,000
特定寄附費支出	600,000	0	600,000
支援費支出	50,000	50,000	0
若手海外派遣カラシップ支出	0	90,000	-90,000
本部事務局運営費支出	0	90,000	-90,000
人給料与手当支出	11,240,000	11,380,000	-140,000
給料与手当支出	4,620,000	4,580,000	40,000
臨時定雇賃金支出	3,400,000	3,380,000	20,000
臨時定雇賃金支出	1,220,000	1,200,000	20,000
臨時定雇賃金支出	1,250,000	1,250,000	0
臨時定雇賃金支出	750,000	750,000	0
臨時定雇賃金支出	500,000	640,000	-140,000
臨時定雇賃金支出	1,250,000	1,250,000	0
臨時定雇賃金支出	550,000	550,000	0
臨時定雇賃金支出	700,000	700,000	0
臨時定雇賃金支出	520,000	560,000	-40,000
臨時定雇賃金支出	50,000	50,000	0
臨時定雇賃金支出	1,700,000	1,700,000	0
臨時定雇賃金支出	80,000	80,000	0
臨時定雇賃金支出	10,000	10,000	0
臨時定雇賃金支出	100,000	100,000	0
臨時定雇賃金支出	410,000	410,000	0
臨時定雇賃金支出	650,000	755,000	-105,000
臨時定雇賃金支出	70,000	70,000	0
臨時定雇賃金支出	70,000	70,000	0
臨時定雇賃金支出	60,000	80,000	-20,000
臨時定雇賃金支出	60,000	80,000	-20,000
臨時定雇賃金支出	0	5,000	-5,000
臨時定雇賃金支出	0	5,000	-5,000
臨時定雇賃金支出	0	70,000	-70,000
臨時定雇賃金支出	0	70,000	-70,000
臨時定雇賃金支出	120,000	110,000	10,000
臨時定雇賃金支出	120,000	110,000	10,000
臨時定雇賃金支出	80,000	80,000	0
臨時定雇賃金支出	80,000	80,000	0
臨時定雇賃金支出	100,000	100,000	0
臨時定雇賃金支出	100,000	100,000	0
臨時定雇賃金支出	100,000	100,000	0
臨時定雇賃金支出	120,000	140,000	-20,000
臨時定雇賃金支出	120,000	140,000	-20,000
事業活動支出計	19,812,000	18,272,000	1,540,000
事業活動収支差額	-2,436,000	-740,500	-1,695,500
II 投資活動収支の部			
1. 投資活動収入			
投資活動収入計	0	0	0
2. 投資活動支出			
投資活動支出計	0	0	0
投資活動収支差額	0	0	0
III 財務活動収支の部			
1. 財務活動収入			
財務活動収入計	0	0	0
2. 財務活動支出			
財務活動支出計	0	0	0
財務活動収支差額	0	0	0
当期収支差額	-2,436,000	-740,500	-1,695,500
前期繰越収支差額①	50,071,710	46,749,329	3,322,381
次期繰越収支差額②	47,635,710	46,008,829	1,626,881

学会後援行事等のお知らせ

■共催 ■空間情報シンポジウム 2016

主催：株式会社インフォマティクス

会期および会場：

2016年7月7日(木)東京、札幌、福岡、

14日(木)大阪、21日(木)名古屋

詳しくは…

<http://www.informatix-inc.com/sympo16/index.html>

■主催 ■防災推進国民会議防災学術連携体 ワークショップ

主催：防災学術連携体（当学会も構成員です）

会期：2016年8月27日（土）、28日（金）

会場：東京大学山上会館（東京）

詳しくは… <http://janet-dr.com/index.html>

■主催 ■G 空間 EXP02016

主催：G 空間 EXP02016 運営協議会（当学会も構成員です）

会期：2016年11月24日（木）～26日（土）

会場：日本科学未来館（東京）

詳しくは… <http://www.g-expo.jp/>

■主催 ■防災学術連携体シンポジウム

主催：防災学術連携体（当学会も構成員です）

会期：2016年12月1日（木）

会場：日本学術会議講堂（東京）

詳しくは… <http://janet-dr.com/index.html>

■後援 ■IPIN2017 屋内測位とナビゲーション 国際会議 2017

主催：IPIN2017 実行委員会

会期：2017年9月19日（火）～21日（木）

会場：北海道大学国際交流会館（札幌）

事務局からのお知らせ

■測量系 CPD 学習プログラムのポイント付与について

2016年度に測量系 CPD 学習プログラムのポイントが付与されるのは、以下の対象者です。

大会で講演発表またはポスター発表した者

（発表者または第一著者のいずれか1名）

『GIS-理論と応用』に査読付き論文が採用された者

2015年度実績

<https://www.jsurvey-cpd.jp/pdf/programs/kyogikai/gisaja.pdf>

■『GIS-理論と応用』特集ページ募集

地理情報システム学会では、今後、地理情報システムと地理情報科学に関する最新の学術動向や社会からの要請を踏まえ、論文集『GIS-理論と応用』にふさわしい内容の特集ページを設けていきたいと考えています。

つきましては、広く会員の皆さまより特集のアイデアを募ることといたしました。

募集期限は設けず、随時応募を受け付けます。ただし、応募資格者は地理情報システム学会の個人会員に限りません。

また、応募された提案書は編集委員会にて審査され、提案が採用された場合、応募者には臨時編集委員をつとめて頂きます。

詳しくは下記の学会 web をご覧ください。

<http://www.gisa-japan.org/publications/sp.html>

■変更届等について

就職、転職、所属や自宅の場所が変わった等々の場合、速やかに変更届をご提出ください。変更はオンラインで出来ます。

<https://www.gisa-japan.org/member/login.php>

■『GIS-理論と応用』への広告掲載について

会員の方は、学会誌『GIS-理論と応用』に製品・技術等の広告を掲載することができます。ご希望の方は、学会事務局までご連絡ください。

1. 広告料金（A4・1頁単位）（消費税別）

後付 50,000 円（1回）

表紙3（裏表紙の裏） 50,000 円（1回）

毎号に掲載の場合は、15%引きです。

2. 原稿について

データでの提出(PDF原稿など26cm×18cm白黒印刷)

3. 提出締切

（6月末発行No.1に掲載）5月25日

（12月末発行No.2に掲載）11月25日

4. 発行部数 1,500部

■学会からの送付物へのチラシ封入について

会員の方は、「ニューズレター」『GIS-理論と応用』送付時に、書籍等広告のチラシを同封することができます。ご希望の方は、学会事務局までご連絡ください。

封入手数料 1部20円×会員数

チラシ送付先、送付期限等については、直接事務局までお問い合わせください。

2016 年 5 月末現在の個人会員 1141 名、 賛助会員 59 社	
賛助会員 (2 口)NTT タウンページ㈱ (1 口)アクリーグ㈱、朝日航洋㈱、アジア航測㈱、いであ㈱、㈱インフォマティクス、ESRI ジャパン㈱、㈱NTT データ数理システム、愛媛県土地家屋調査士会、応用技術㈱、大阪土地家屋調査士会、オートデスク㈱、㈱オオバ、㈱かんこう、関東甲信越東海GIS 技術研究会、㈱岐阜県建設研究センター、九州GIS 技術研究会、協同組合くびき野地理空間情報センター、近畿中部北陸GIS 技術研究会、㈱こうそく、国際航業㈱、国土情報開発㈱、㈱古今書院、GIS 総合研究所いばらき、ジェイアール西日本コンサルタンツ㈱、㈱ジオテクノ関西、㈱ジオプラン、㈱昭文社、㈱ジンテック、㈱ゼンリン、㈱ゼンリンジオインテリジェンス、㈱谷澤総合鑑定所、玉野総合コンサルタント㈱、中四国GIS 技術研究会、テクノ富貴㈱、デジタル北海道研究会、東北GIS 技術研究会、㈱ドーン、長野県GIS 協会、にいがたGIS 協議会、日本情報経済社会推進協会、日本スーパーマップ㈱、㈱日本測量調査技術協会、日本土地家屋調査士会連合会、㈱日本地図センター、パシフィックコンサルタンツ㈱、㈱パスコ、阪神高速技研株式会社、東日本総合計画㈱、北海道GIS 技術研究会、㈱マップクエスト、㈱松本コンサルタント、㈱三菱総合研究所、三菱電機㈱、㈱リモート・センシング技術センター 自治体会員：(1 口)経済産業省特許庁、総務省統計局統計研修所、長野県環境保全研究所、福岡県直方市	
学会分科会連絡先一覧	
●自治体：浅野和仁（大阪府富田林市） 事務局：青木和人（あおきgis研究所 Tel 050-5850-3290） E-mail: kazu013057@gmail.com ●ビジネス：高阪宏行（日本大学 Tel 03-3304-2051） E-mail: kohsaka@chs.nihon-u.ac.jp ●防災GIS：畑山満則（京都大学防災研究所 Tel 0774-38-4333） E-mail: hatayama@imdr.dpri.kyoto-u.ac.jp ●土地利用・地価GIS：確井照子（奈良大学） 事務局：西端憲治（㈱セイコム Tel 0721-25-2728） E-mail: totiriyo-sig@seicom.jp ●時空間GIS：吉川耕司（大阪産業大学 Tel 072-875-3001） E-mail: yoshikaw@due.osaka-sandai.ac.jp	●地図・空間表現：若林芳樹（首都大学東京 Tel 042-677-2601） E-mail: wakaba@tmu.ac.jp ●セキュリティSIG：内布茂充（行政書士 内布事務所 Tel 090-2284-4125） E-mail: spcn87q9@royal.ocn.ne.jp ●FOSS4G分科会：Venkatesh Raghavan（大阪市立大学） 連絡先：嘉山陽一（朝日航洋㈱ TEL049-244-4032） E-mail: youichi-kayama@aeroasahi.co.jp ●若手会員分科会：山本佳世子（電気通信大学 Tel 042-443-5728） E-mail: k-yamamoto@is.uec.ac.jp ●IoTとGIS：巖網林（慶應義塾大学 Tel 0466-49-3453） E-mail: yan@sfc.keio.ac.jp
地方支部の連絡先一覧	
<北海道支部> 支部長：小樽商科大学 深田秀実 Tel: 0134-27-5399, E-mail: fukada@res.otaru-uc.ac.jp <東北支部> 支部長：東北大学 井上亮 Tel: 022-795-7478, E-mail: rinoue@plan.civil.tohoku.ac.jp <北陸支部> 支部長：新潟大学 牧野秀夫 Tel: 025-262-6749, E-mail: makino@ie.niigata-u.ac.jp <中部支部> 支部長：中部大学 福井弘道 連絡先：杉田暁（中部大学） Tel: 0568-51-9894（内線 5714）, E-mail: satoru@isc.chubu.ac.jp <関西支部> 支部長：大阪工業大学 吉川眞 連絡先：田中一成（大阪工業大学） Tel: 06-6954-4293, E-mail: gisa@civil.oit.ac.jp	<中国支部> 支部長：広島修道大学 川瀬正樹 Tel: 082-830-1210, E-mail: kawase@shudo-u.ac.jp <四国支部> 支部長：高知大学 松岡真如 Tel: 088-864-5166, E-mail: msykmktok@kochi-u.ac.jp <九州支部> 支部長：九州大学 三谷泰浩 Tel: 092-802-3399, E-mail: gisaku@doc.kyushu-u.ac.jp <沖縄支部> 支部長：琉球大学 町田宗博 E-mail: machida@ll.u-ryukyu.ac.jp 連絡先：澤岨 直彦（特定非営利活動法人沖縄地理情報システム協議会） Tel: 098-863-7528, E-mail: takushi@okicom.co.jp
■ 編集後記 ■ 玉川先生が新会長に就任され、今年度も本格的にスタートいたしました。 この書き出しは会長のお名前こそ変われども、2 年前と一緒にです。然しながら GIS を取り巻く状況は大きく変わって参りました。学会も今年で 25 周年何か変わりそうな予感がします。新しい試みや学会員だけではなく様々な人や団体間の協働など、変革を起こせたら良いと思う次第です。 ニュースレターは新たなメンバー構成で皆様にお読みいただけるような紙面づくりを心がけますので、ご協力のほど、よろしくお願いいたします。（こも前のからコピペです すみません） 谷口 彰 (GIS 総合研究所&応用技術株式会社)	地理情報システム学会ニューズレター 第 98 号 ●発行日 2016 年 6 月 20 日 ■発行 一般社団法人 地理情報システム学会 〒113-0032 東京都文京区弥生 2-4-16 学会センタービル 4 階 TEL/FAX: 03-5689-7955 E-mail: office@gisa-japan.org URL: http://www.gisa-japan.org/ ■ 弥生雑記 ■ とても残念なことだが、災害時にデマはつきものだ。4 月の熊本地震の際も、SNS によって拡散された類が数多くあり、被災地の大学のゼミが警察に捜査協力しているニュースを目にした。現地で極限状態に置かれた人々の恐怖や不安から生じた噂がデマとして広がったのではなく、SNS の向こう、安全な場所から無責任にデマを発し拡散する人品の卑しさに、嫌悪感が募る。 明治 22 年（1889）7 月 28 日深夜、今回の被災地域と重なるように M6.3 の地震があった。遡ること明治 13 年（1880）に世界で初めての地震学会が日本に設立され、明治 3 年（1871）に日本で初めて日刊紙が創刊されている。科学的調査が初めて実施され、報道された地震でもある。この時も熊本の金峯山が噴火するという噂が広く流れたが、専門家による調査を受け、8 月 3 日に新聞が号外を発行して安全を報じると、騒ぎは沈静化したという。 デマは恐怖や不安や不信に依って、心に放たれる火である。その鎮火方法も、大規模災害の際には心を配る必要があるようだ。（学会事務局）